

平成 20 年 3 月期中間及び通期業績予想の修正に関する主な質疑応答

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

本日公表致しました平成 20 年 3 月期中間及び通期業績予想の修正に関しまして、皆様からお問い合わせの多いご質問への回答を、以下の通り掲載致します。

Q. SMBC 単体の業績予想について、中間期の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）の
前回予想比の増益要因を教えてください。業務純益に対して、サブプライム
ローン関連の証券化商品への投資に関する売却損や償却損の影響はなかった
のですか。

A. 中間期の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、前回予想比 250 億円増益の
3,900 億円程度となる見込みです。

これは、内外の金利低下局面をとらえたオペレーションにより、市場営業部門
収益が計対比増益となった他、夏場以降の円高を背景に、お客さまの外国
為替関連のヘッジニーズが高まり関連収益が増えたこと、高格付けの事業法人
を中心とした海外での積極的な貸金積上げに伴いアセット関連収益が増えた
こと等によるものです。

サブプライムローン関連の証券化商品への投資に関しましては、平成 19 年 10
月 26 日付の当社プレスリリース（「平成 20 年 3 月期 業績予想の修正について」）
の「参考資料 1」でお示ししているとおおり、SMBC では、今中間期中に約 40 億
円の売却損を計上して残高を圧縮した他、9 月末の時価が額面の 50%を下回った
ものを対象に、約 170 億円の償却を実施しております。これらの減益要因を、
市場営業部門収益等の増益によって吸収した上で、SMBC 単体の中間期の業務純
益（一般貸倒引当金繰入前）は、前回予想比 250 億円の増益となる見込みです。

Q. 9 月末現在のサブプライムローン関連の証券化商品への投資残高、含み損益を
教えてください。投資以外の融資等のエクスポージャーについても教えてください。
今後、追加損失が発生する可能性はどうか。

A. サブプライムローン関連の証券化商品への投資残高は、償却後の簿価で約 700
億円、9 月末時点の評価損は約 180 億円となっております。なお、これらの
投資を含む、SMBC 単体の「その他有価証券」全体の評価損益は、9 月末時点で、

1兆5,170億円の評価益となる見込みです。

米国拠点で行っているウェアハウジングローン等の、証券化商品を担保とする融資業務（9月末の残高は約400億円）に関しては、サブプライムローン関連資産が担保となっている部分（約250億円）について、約110億円の引当処理を実施しております。

今後は、市場の動向を見ながら、サブプライムローン関連のエクスポージャーを削減していく方針ですが、9月末において、前述したような償却・引当処理を行っていることから、今後発生し得る追加コストの額は限定的であり、本件投融资が当社業績に与える影響は限定的と考えております。

Q. 19年度通期の業績予想の前提となる金利、為替前提は、前回予想対比変わっていますか。

A. 5月に発表した前回業績予想時の前提条件から特段の変更はございません。

（ご参考）5月発表の業績予想における前提条件

	平成19年度
名目GDP成長率（年率）	2.5%
TIBOR3ヶ月物レート（期中平均）	0.72%
10年円スワップレート（期中平均）	1.87%
ドル円（期末値）	115円

Q. SMBC単体で、関連会社株式等で減損が発生したこと等により、株式等関係損益が1,040億円の損失となった、とのことですが、その内容を教えてください。また、これらの損失は、SMFG連結決算にどのように反映されるのですか。

A. 株式相場下落により、主として、コンシューマーファイナンス業務関連の提携先の株式において、9月の時価が取得簿価の50%以上下落したものについて、減損処理を行いました。

主な内訳は、プロミスについては、既に投資損失引当金を計上していたことから、ネットで約460億円、OMCカードについては、株式と信託受益権を合わせた合計で約440億円、セントラルファイナンスについては約60億円の減損となっております。なお持株会社であるSMFGが保有しているセントラルファイナンス株式についても、減損に伴い約40億円の株式等関係損失が、SMFG単体決算に計上されております。

前述した3社のうちプロミスとセントラルファイナンスについては、連結決算上の持分法適用会社であるため、単体決算で発生した株式の減損による損失は連結決算上認識されません。

連結決算には、プロミス、セントラルファイナンス等持分法適用会社の当期純利益に、当社持分割合を乗じた金額が「持分法投資損益」として計上されます。

なお、OMCカードにつきましては、現時点では持分法適用会社ではありません。従って、中間期にSMBC単体で発生した株式及び信託受益権の減損による損失約440億円は、中間期のSMFG連結決算にそのまま反映されます。

Q. SMBC単体の与信関係費用が予想対比増えたとのことですが、不良債権が増えているのですか。

A. 9月末の金融再生法開示債権の残高は7,740億円と、3月末対比353億円の増加となる見込みですが、不良債権比率は変わらず1.2%と、引続き低水準を維持しております。

Q. 中間期の与信関係費用が前回予想比450億円の増加となる一方で、通期の与信関係費用が前回予想比200億円の増加にとどまるのはなぜですか。

A. 中間期の与信関係費用は、サブプライムローン関連の引当等の一時的な要因や、一部の債務者において業況の悪化等により想定外の劣化が発生したこと等により、前回予想比450億円の増加となる見込みです。

一方、通期の与信関係費用は、過去の貸倒実績率等に基づき計上している引当金について、貸倒実績の減少に伴い1,000億円程度の取崩しが下期に見込まれること等から、前回予想比200億円の増加にとどまる見通しとしております。

Q. SMFG連結の業績予想について教えてください。中間純利益予想が前回予想対比500億円減益の1,700億円となる一方で、19年度通期の当期純利益予想が前回予想比300億円増益の5,700億円となるのはなぜですか。

A. これは、下期にリース事業子会社の合併に伴い、持分変動差額（特別利益）約1,000億円が計上されること等によるものです。持分変動差額の概要につきましては、平成19年10月26日付の当社プレスリリース（「平成20年3月期業績予想の修正について」）の「参考資料2」をご覧ください。